

ミステリー? “天空を覆う黒い影”

日時:2018年7月16日(月・祭) 天候:晴れ 14000歩 約10Km

集合:京急線平和島駅枚札前 9時45分 10時出発

コース:平和島駅→大森東一公園→大森ふるさとの浜辺公園→平和の森公園・海苔のふるさと館→流通センター駅→東京港野鳥公園→城南島海浜公園(バス)→JR大森駅(解散)

参加者:吉越(L) 小島(SL) 山田(SL) 班長=勅使河原 熊島 桑名

佐藤よ 吉野 平嶋 神谷 平石 大平 高橋文 小野里 青松秀 佐藤繁 深瀬 山内 宮野 福士 山川 清水 志村 橋本 中林 仁井 脇坂 鈴木孝 計28名

この日“天空を覆う黒い影”はついに現れなかった! 確かランチタイムの時には間違いないと確信したものの、上空には暑い夏空が広がっているのみ・・・(これこそがミステリー?) 京急平和島駅を10時にスタート、近くの公園でストレッチの後、「大森ふるさとの浜辺公園」に向かいます。ここには人口の砂浜があり、家族連れが水遊びを楽しんでいましたが、すでに気温は30度を超え、シニア集団にはこの先が思いやられます。「大森・海苔のふるさと館」では、かつてこの辺りで盛んだった海苔の種付けから乾燥作業までを、当時のビデオと唯一残る海苔船等の資料で学びました。モノレール平和島駅を越えると、そこは緑溢れる「東京港野鳥公園」、園内の冷房の効いたネイチャーセンターでランチタイム。幸い全員がテーブル席に座ることが出来、暫し外の危険温度からは脱出。猛暑のせいかな野鳥たちも何処かに避難した様で、その姿を見ることが出来ませんでした。食後はまた強い日差しの中を移動し、最終地点の「城南島海浜公園」に到着。下見の時には南の強風で、丁度頭上ストレスに羽田空港に着陸する旅客機が見られましたが、我々が公園に着いた時にはその姿は見当たらず、遙か沖合から着陸してくる機影を眺めるに留まりました。皆さんには是非とも迫力あるシーンを体感してもらいたかったのですが・・・残念でした! その代わりに羽田空港の滑走路について、若干の説明をさせて頂き城南島を後にしました。猛暑のなか皆さん大変お疲れ様でした。

<フォトレポート 小島>



城南島海浜公園のゲート前で。本来ならこの頭上を“黒い影”が通過する予定でしたが・・・



京急平和島駅。朝から結構人通りがあります。



吉野前会長も元気そうな姿を見せてくれました。



近くの公園で山田SLによるストレッチ。コースは・・・と言ってもミステリーなのでコース説明はナシで！



公園を出て引き潮の潮入運河沿いを歩きます。



本日の第一ポイント「大森ふるさとの浜辺公園」着。



足元からも熱気が伝わってきます。



ここは人工海浜。ボード遊びの若者達がありました。



砂浜ではヨガ体操？それともよさこいの練習？



あれ、もうすでにお手上げですか？（単なるポーズかも）



ここからは地続きの「平和の森公園」となります。



今日は「アフターいくの？」「いくいく！」・・・



皆さんが向かっている先は・・・



その名も「大森 海苔のふるさと館」



担当者の説明とビデオで海苔の歴史を学びます。日本人にしかわからないこの風味、外国人にはわかるめえ！
※国内海苔の生産量日本一は佐賀県で有明海産。有明海産は熊本・長崎等も含め国産海苔の約40%を占めています。



大田区に唯一残る海苔船（伊藤丸）も展示。

「海苔のふるさと 大田区の海辺」

※海苔づくりは今から300年ほど前、江戸時代の享保の頃に始まったといわれる。品川から大森周辺の海辺に“ひび”とよばれる「そだぎ」を立て、その枝に育つ海苔を摘み取った。特に浅瀬の広がる大森周辺は大きな産地として発展、江戸時代の終わりごろ、ここから海苔づくりは各地へと伝わり始めた。明治以降は各地で海苔づくりが行われるようになったが、大田区沿岸の海苔は、質・量とも全国に誇り“本場乾海苔”と称賛された。その後は東京沿岸部の埋め立て計画に応じるため、昭和37年12月に生産中止を決定、翌38年春にその歴史を閉じたが、大森周辺には海苔問屋が多く、現在も海苔流通網の重要な拠点の一つとなっている。（同館パンフレットより抜粋）



海苔つけ流し台。昔は一枚一枚手作業でした。



外に出るとまた熱気のなかに突入。やや曇ってきた！



本日唯一の上りは首都高を跨ぐこの歩道橋でした。



東京流通センター物流ビル。休日で閑散としています。



皆さんの頭上は東京モノレール流通センター駅です。



環七大和橋に出ました。涼しい海風が通り抜けます。



創立50周年記念のデザイン画が壁面を飾る。



猛暑も何のその、皆さん楽しそうな笑顔ですね！



東海緑道は緑も多く日陰が嬉しい道です。



「東京港野鳥公園」に到着。早速座り込み？



園内は木々が茂りグリーン一色です。

「東京港野鳥公園」

※この場所はかつては浅い海でしたが、1960年代に埋め立てられた。その後、自然にできた池や草原に野鳥が集まるようになり、地域の人達は、よみがえった自然を守る運動を始めた。その結果、東京都はここに公園を作ることを決定。1978年にできた大井第七埠頭公園は現在の西淡水池周辺部のみの公園だったが、拡大開園を望む都民の声が高まり、1989年に現在の東京港野鳥公園になりました。（公園案内マップより抜粋）

←その名も「いそしぎ橋」





お待ちかねのランチはネイチャーセンター1Fのテーブル席で。目の前は潮入の池、最高のロケーションです。



ネイチャーセンターの正面で全員集合。冷房が効いた場所から急に外の熱気に触れ体温調整が微妙！



オアシスからまた日差しの中へ。



皆さん日陰を見つけるのが上手になりました！



城南島埠頭公園で水分補給の小休止。



ここでも日陰は貴重な存在です。(動きたくない?)



おや、近くの農婆が・・・いやこれはリーダーでした！



ゴールの「城南島海浜公園」に到着です。

「城南島海浜公園」とは・・・

※潮干狩りも可能な人工海浜、都区内では唯一のオートキャンプ場を備えたキャンプ場などがある。また、公園は羽田空港も近く、羽田空港を離着陸する飛行機を間近に眺められるビュースポットとしても知られており、公園の目と鼻の先に羽田空港 B 滑走路につながる誘導灯が見えるので、航空ファンが旅客機の撮影に訪れることも多い。



さあこの方向から“天空を覆う黒い影”がくるはず・・・・・・ですが、一向にその気配は無し！何かおかしい？



羽田空港B滑走路が駐機場のようになっています。

本来ならばこの様にスレスレに降りて来るはずだった！



●羽田空港には4本の滑走路があり、その日の風向きにより使用する滑走路が管制塔から指示されます。Aは3000m、BとDは2500m、Cは3360mとなっていますが、滑走路にはここにあるような数字が書かれています。この数字は方位を表しており、例えば34とあるのは方位340度、北北西方向になります。またAとCは平行しているので、区別しやすいよう数字の後にR（右側）とL（左側）を表示してあります。また同滑走路を逆に離発着する場合には、方位が16で160度となり南南東方向となります。皆さんも羽田を利用する時には風向きを確認し、自分の乗機がどの滑走路を使うのかを推理してみても良いでしょう。



※帰りのバスの時間が迫っていたので、早々に公園を出てバス停へ向かいました。翌日の紙面を見ると、今回着陸コースが急遽変わった理由が分かりました。何とB滑走路に穴があいてしまい、それで着陸指示が変更されたとのこと。これではいくら待っても上空には現れないはず。機会がありましたら再度この公園を訪れその迫力を味わってみて下さい。感動しますよ！1時間に1本のバスには全員乗ることができ、ここからJR大森駅へ。ニュースではこの日の東京は最高気温がでたそうですが、海が近かったお蔭か風が通り、猛暑の実感は私にはそれほど感じられませんでした。(痴呆気味か?)

←城南島四丁目バス停にて

END